

枕崎



特集

みんなちがって
みんないい
～考えてみよう人権のこと～

新春かつおジョギング大会
<関連記事16ヶ>

みんなちがつて みんなないい

～考えてみよう人権のこと～



県内外で男女共同参画を始め、人権や多様性について「ワークショップ」という手法を使って、講座や研修を行っているワークショップデザイナーの高崎恵さんにお話を聞きました。

——ワークショップとはどういうものですか？

ワークショップとは、参加・体験しながら人とのかかわりの中で学ぶことです。進行役の私は一方的に教えるのではなく、参加者に気付きを促したり、参加者同士のコミュニケーションの場を作ったりします。1人で考えるのではなく、みんなで話や体験をしながら、そのテーマについて一緒に考えても

——ワークショップで人権や男女共同参画について伝えようと思ったきっかけは？

私はワークショップデザイナーになる前は、ラジオ局やレコード会社などメディアの世界で働いていました。ラジオ局では、非正規雇用で仕事をしていました。そこでは「電話に出るのは女の人の仕事」のように働く場において、「男性の方が上で女性の方が下」みたいに、雑用は女性がする風潮がありました。そしてある日、私が電話対応をしているときに別な電話が鳴って、そこにいた男性社員に「電話鳴ってるよ、早く出て」って言われたんです。そういう出来事が

あつて、ここでは女性は低く見られているんだなと強く感じました。その他にも、深夜番組では特に差別的な発言が「おもしろい」とされていることがあります。「おかしい」と思っても非正規雇用の立場では会議に出る機会もなく、私には発言の場がなかったです。その後レコード会社から正社員の誘いがあつた。そこで「電話に出るのは歌手の人たちは年間契約で、CDが売れない」と契約を切られました。でも、営業の私たちには何の責任も問われませんでいました。私は何の痛みも伴わないに、作り手側の歌手の契約が切られるのは「おかしい」と思いました。そういう出来事があったとき、働く自分を振り返ったときに、違和感や疑問を感じるのが、人権が大事にされていない場面で、私はそういうところにいたくなかったです。そう思った時に、自分の親が人権や男女共同参画についての大切さを伝える仕事をしていることを思い出して、私もやってみたいと思ったのがきっかけですね。

——各地で活動をしてみて、どういったことを感じますか？

各地を周る中で感じるのは、

人権が大事にされていない場面で違和感や疑問を感じた

ワークショップデザイナー
高崎 恵さん



——各地で活動をしてみて、どういったことを感じますか？

各地を周る中で感じるのは、

全国どの地域でも抱えている課題は同じだなということです。特に共通しているのが「他の人と違つたら嫌だ」というところです。「ちがい」を恐れているところは、どこの地域でも同じです。でもみんな思っていることを話したいんだなって感じます。ワークショップで発表してもらつた時に、その発表に対し私が肯定的なコメントをするとき、すごくうれしそうな顔をするんです。それくらい人は日常の中でも認められていないんだと実感します。

——活動を通じて伝えたいことは何ですか？

この世に性別や生まれる順番を選んで生まれてきた人はいません。自分で変えることの難しさ、自分では選ぶことのできない性別などの「属性」等によって進む道が決められることがあります。これはならないと思っています。人権や男女共同参画が大事だということをみんなで共有するために、参加者自身に気付いてもらうためのワークショップづくりをします。

高崎さんは現在、県男女共同参画センターが主催する「子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業」で、事業コーディネーターとして県内各地の小・中学校でワークショップを行っています。

本市では昨年度、桜山中学校で、そして今年度は桜山小学校で同事業を実施しており、児童や保護者、教職員を対象に高崎さんによるワークショップを行いました。また、「まくらざきハーモニーフェスティバル」や市職員を対象とした男女共同参画研修会でも同様のワークショッピングを行いました。

では、どのようなワークショッピングが行われているのでしょうか。桜山小学校で実施された子どものたちの男女共同参画学びの広場推進事業」の様子を紹介します。

わたしたちは、誰もがかけがえのない存在であり、多様な個性と豊かな可能性を持っていますしかし、さまざまな人権の課題によってそれらを生かすことができていない現状があります。今回、人権に関するさまざまな取り組みを取り組みを取材し、誰もが自分らしく、いきいきと幸せに暮らしていくためには何が大切なのか考えてみました。

描いた絵を見せ合って お互いに感想を言おう ～どもその前に～



慣れないことを やってみよう ～アイスブレイク～



普段とは反対の手で自分の名前を書いて、いつもより難しかったですよね。みんなそれぞれ慣れていないことや初めてのことがあって、それは誰にとっても難しいんです。地域の中には色んな人が住んでいて、経験が違う人同士が助け合って暮らしているはずです。経験が違うのだからできないこともあって当然です。学校や地域などの活動ではできることは伸ばし合いながら、できないことは助け合いながらやっていただきたいと思います。

Youメッセージ・Iメッセージってなに？

日頃振り返ってみて「Youメッセージ」で伝えていることが多くありませんか？

**Youメッセージ
(あなたメッセージ)**
=違う意見を言う人や、自分と違った方法を選ぶ人を「You(あなた)」を主語に伝えること
例)「あなた違うよ」、「あなたのやり方違うよ」、「あなたおかしいよ」
→違う・おかしいというごとを攻撃的に伝えることが多くなっている

**Iメッセージ
(わたしメッセージ)**
=私が相手に対して違うと思う気持ちを「I(わたし)」を主語にして伝えること
例)「私は●●さんの意見に対して、こんな経験があるから▲▲という方法を選んだ方がいいと思うのですが、どうですか」
→「違う」ということを伝えているが、なぜ違うのかという理由も相手に伝えることができる

みんなでやってみよう Let's ワークショップ



- ①紙の真ん中に大きな丸があります
- ②今、描いた丸の上には今描いた丸より少し小さめの丸があります
- ③これらの丸の近くには大小さまざまな三角があります
- ④三角のいくつかは線でつながっています
- ⑤これまで描いたものたちの下の方には長い四角があります
- ⑥紙の余白には無数の点があります

絵を 描いてみよう ～シジエカキ～



- ルール**
- ①しゃべらない
=無言で描きましょう
 - ②のぞかない
=1人で考えて描きましょう

～高崎さんからのメッセージ～

今回のお絵描きをおして、私たちは本当に一人ひとり「ちがう」存在ということを実感していただけたのではないかでしょうか。同じような絵を描いた人もいれば、全然違う絵を描いていた人もいたと思います。その絵は「男の人」だとこういう絵、「女の人」だとこういう絵、「子ども」だからこういう絵、「大人」だからこういう絵というふうにはなってなかったと思います。描いた絵は「あなたがあなただった」から描いた絵です。それが一人ひとりの「個性と能力」です。性別や年齢にかかわりなく一人ひとりにあるんです。

私たちは地域や学校などで生きています。それぞれの場所で「ちがい」を生かしていくことが大切です。「ちがい」が源泉となり、地域や学校などの課題を解決するための知恵や力を生み出していけます。知恵や力は「かかわり」の中から生まれるといわれています。「かか

わり」の中で大切なことは「人権」です。人権を考えていいく上で、私たちの社会が乗り越えていかなければならぬのは「男だから、女だから」という性別や年齢などによって役割が決められている現状です。一人ひとりが持つ個性や能力を存分に生かしていけるよう、自分の事も大事にしながら、他の人も尊重していってほしいです。

みなさん一人ひとりの意識が変わり、意識が変わることで行動が変わります。行動が変わることで、地域や学校などの在り方が変えていけるということをみなさん一人ひとりの胸に刻んでほしいです。



ワークショップに参加したみんなの感想

ときどき友だちに、強くちがうよと言う時があつたけど、今日でなおそうと思いました。(2年生)

教師としても、母としても、子どもたちには多様も、考え方があること、そんな考え方をみんなが認めてあげること、そして自分も認められる存在であることなどを伝えていけたらと思います。(教職員)

いちばん心に残ったのは、わたしたちはちがいをこわがっているということです。私は発表が少しにがてです。わたしはちがいをこわがっているのかもしれません。なので、こわがらずに発表していきたいです。(3年生)

みんなちがう。分かっていてもうまく受け入れていない自分がいました。今回のワークショップを実際聞いて、「そうか、子どもに対する違いを忘れていたな~」と思い直しました。メッセージはどんどん伝え、みんなと交じり合う楽しさをこれからも感じたいと思いました。(保護者)

「みんなちがってみんないい」という文が好きになりました。一緒に人なんていないから一人ひとりがいいんだと思います。(6年生)

グループの人といっせいに絵を見せ合って、見たときにみんなそれぞれ違った絵を描いていて、同じことを言われてもみんなとらえ方が違うことに驚きました。(4年生)

同じ事を聞いているのに、人の数だけ考えがあるということに改めて気づかされたお話でした。(保護者)

一人ひとり考え方が違っていて当然で、一人ひとり違うから面白いんだなと思いました。自分の子どもにも「こうあるべき」、「こうすべき」を押し付けず、良いところをたくさんほめてあげようと思います。(保護者)



話し合ったことを発表しよう



みんなそれぞれの絵を描いていて、面白いのやおかしなものありました

絵を見せ合ってみると、一人ひとりそれぞれ違った絵を描いていたと思います。全く同じ絵を描いた人はいませんでしたよね。「みんなの絵が『ちがう』ことが面白かった」と勇気をもって、手を挙げてみんなに教えてくれてありがとう。



描いた絵を見せ合って
お互いに感想を言あう

人

權

宣

言



皆さんのお手伝いする「人権擁護委員」

全国の市町村には、法務大臣が委嘱した民間ボランティアの人権擁護委員が配置され、地域の相談パートナーとして人権に関するさまざまな相談に応じています。

「人権っていうのは難しいと思われていますが、考えてみればそうでもないです。みんな同

じ人間ですが、人間はみんな違うということをわかつてもらつて、それを当たり前に思えるようになってほしい。人権とはつまり相手のことを考えましょう

つていうことなんです」と話すのは、人権擁護委員で知覧人権擁護委員会枕崎地区部会長の牛山好治さん。

本市では、6名の人権擁護委員が人権相談のほか、学校や保育園、老人福祉施設等での人権



人権擁護委員
牛山 好治さん

人権は、人が幸せに生きるた
めに相談にきてください」と話しました。

牛山さんは「2020年には東京オリンピックもありますから、今後は、外国人に対する人権啓発活動にも取り組みたいで教室や街頭での啓発活動など、さまざまな活動をとおして人権への理解を呼びかけています。

牛山さんは「2020年には東京オリンピックもありますから、今後は、外国人に対する人権擁護委員は、色々な業種の方々がいて経験も豊富なので、どんどん頼ってほしいと思います。各公民館やグループ単位でいいので、どんどん声をかけていただきたいです」と話します。そして「人権擁護委員は、よく『よろず相談』、何でもいいのでお気軽に相談してください。年に6回の特設人権相談だけでなく、不安に思つたら個々に相談にきてください」と話しました。

①妙見の里で行われた人権教室 ②街頭キャンペーンでは人権に関するチラシやグッズを配布 ③立神海の風こども園で行われたわくわく人権ルーム ④人権週間にあわせて人権に関する本を市立図書館に展示

平成30年度特設人権相談

日々の暮らしの中で起こるさまざまな人権に関する相談に、市の人権擁護委員が応じます。相談は無料で、予約も不要です。

- 開設日 4月19日(木)／6月1日(金)／8月23日(木)
／10月18日(木)／12月20日(木)／2月7日(木)
- 時間 午前10時～午後3時
- 場所 市民会館第3会議室
- 問合せ 総務課秘書広報係 TEL72-1111(内線211)

相談窓口	相談内容等	電話番号等
みんなの人権110番	差別や虐待、パワーハラスメントなど、さまざまな人権問題についての相談を受け付けています。	0570-003-110
子どもの人権110番	「いじめ」、虐待など、子どもの人権問題に関する専用相談電話です。	0120-007-110 (フリーダイヤル)
女性の人権ホットライン	配偶者・パートナーからの暴力やセクシュアル・ハラスメント等、女性の人権問題に関する専用相談電話です。	0570-070-810
高齢者・障害者の人権あんしん相談	高齢者や障害のある方に対する虐待やいやがらせ、差別などに関する相談を受け付けています。	0570-003-110
インターネット人権相談	相談フォームに氏名、住所、年齢、相談内容等を記入して送信すると、最寄りの法務局から後日、メール、電話または面談により回答します。	http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html

うということをわかつてもらつて、それを当たり前に思えるようになってほしい。人権とはつまり相手のことを考えましょう」と話すのは、人権擁護委員で知覧人権擁護委員会枕崎地区部会長の牛山好治さん。

本市では、6名の人権擁護委員が人権相談のほか、学校や保育園、老人福祉施設等での人権

めの権利で誰もが等しく持つているものです。しかし近年では、さまざまな人権侵害が問題となっています。

誰もが自分らしく、いきいきと幸せに暮らしていくために「人権」を自分自身の問題としてもう一度考えてみませんか。

◎人権に関するご質問

- 総務課秘書広報係 TEL72-1111(内線211)
- 生涯学習課生涯学習係 TEL72-1111(内線211)
- 男女共同参画に関するご質問 TEL72-1111(内線219)
- 企画調整課政策推進係 TEL72-1111(内線219)

児童を対象にしたワークショッピング終了後、児童会主催の人権集会が行われました。児童たちは、学年の枠を超えた「スマイルグループ」に分かれ、ワークシートで学んだことを踏まえ、人権を守るためにどういう行動を取つたらいかななどを話し合いました。話し合いの際は、すべての学年の児童がわかるように、言葉の使い方に配慮しながら、それぞれのグループの目標を掲げました。そして、掲げた目標は手作りのポスターに記され、最後には各班が目標を発表しました。また、児童それぞれが人権を守るために付く場所に掲示されています。

みんなちがって みんなないい

~考えてみよう人権のこと~





第32回老人クラブ芸能大会

■2月16日、市民会館で開催されました。市内の老人クラブから13団体が出場し、踊りや歌、体操などさまざまな演技を元気に披露しました。



アーサー・ビナードさんがトークイベント

■2月18日に図書館で行われました。アーサーさん作の絵本「ドームがたり」に、枕崎台風について描かれていることがきっかけでこのイベントが実現し、アーサーさんは平和の大切さなどについて話をしました。



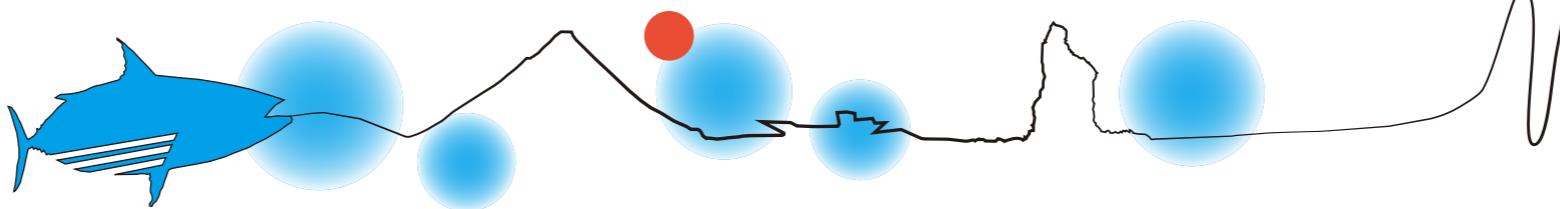
西郷どんゆかりの地を巡る

■2月11日、西郷隆盛ゆかりの地まち歩きツアーが行われました。参加者はまくらざき探検隊のガイドのもと、西郷隆盛が降り立ったガンギや宿泊した立志清右衛門宅跡地などを巡りました。



勉学の道歩こう会

■1月20日に開催され、53名が参加しました。桜山小学校の前身である桜山尋常高等小学校出身の玉川学園の創設者の小原國芳先生が歩んだ通学路約12キロを歩きました。



100歳おめでとうございます

～岩尾ミカさん(塩屋北町)

岩尾ミカさんが2月1日、めでたく100歳の誕生日を迎え、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

岩尾さんは終戦後、台湾から夫婦で枕崎に引き上げてきました。若いころはよく体調を崩していたため、普段から食事には気を付けています。毎日、茶節やチーズ、ヨーグルトを欠かさず食べ、そのおかげで今は元気に過ごしています。

趣味は手芸で、以前は手まりや傘を作っていました。また、数独を解くのも好きで、頭の体操をよくしていました。

これからも元気で長生きしてください。



100歳おめでとうございます

～田畠スエミツさん(塩屋北町)

田畠スエミツさんが2月27日、めでたく100歳の誕生日を迎え、市と社会福祉協議会から花束と祝い金が贈られました。

田畠さんは生まれも育ちも枕崎市で、製材所や魚の水揚げの仕事をしながら5人の子どもを育てました。

趣味は手芸で、服や編み物、ビーズ飾りを作り、作った小物は周りの人たちにも振る舞い、大変喜ばれたそうです。最近は、認知症予防にと算数や漢字ドリルに日々取り組んでいます。

これからも元気で長生きしてください。



①元気に駆け出す子どもたち ②励まし合いながら走る親子ランナー ③最後まで笑顔で走るランナー ④ゲストランナーの飛松佑輔さん ⑤まくらざきハーモニーネットワーク委員会による恒例のおもてなし

川辺チーム健闘の3位

～第65回県下一周市郡対抗駅伝競走大会

第65回県下一周市郡対抗駅伝競走大会が2月17日から5日間の日程で開催され、川辺チームは総合3位と健闘しました。初日の17日は本市を通過。第8中継所の枕崎市役所前には、多くの市民が応援に駆けつけ、ランナーたちに声援を送りました。

会場では恒例となった、まくらざきハーモニーネットワーク委員会による茶節や腹皮のから揚げの振舞いもあり、大盛況となっていました。

本市関係選手では、立神中学校出身の田畠庸祐選手が初日の5区で区間記録を更新し、別府中学校出身の茅野智裕選手は初出場ながら4日目の4区で区間賞を獲得するなど、力強い走りをみせていました。



新春の枕崎路を駆け抜けける ～第41回枕崎新春かつおジョギング大会

第41回枕崎新春かつおジョギング大会が1月28日、市営野球場周辺、火之神方面への1、2、4、10キロの4コースで行われました。遠くは大阪からなど、県内外から481人が参加し、新春の枕崎路を駆け抜けました。昨年の鹿児島マラソンで優勝した飛松佑輔さんをゲストランナーに迎え、前田祝成市長も4キロを走り、ランナーたちとともに汗を流しました。各部門での優勝者は次のとおりです(敬称略)。

【1キロ・小学1～3年生】男子=中村鳳介、女子=松尾真昊【2キロ・小学生】男子=勝田聖也、女子=川崎香奈美【4キロ・中学生】男子=藏元健心、女子=北薙彩葉【4キロ・高校生～39歳以下】男子=木戸開彦、女子=光七海【4キロ・40歳以上】男子=重井信顯、女子=有木千代子【10キロ・高校生～39歳以下】男子=濱崎泰博、女子=齋藤智恵【10キロ・40歳～59歳以下】男子=染川聖二、女子=戻迫直美【10キロ・60歳以上】男子=坂口修啓、女子=松下エツ子



永遠の友情を願い記念植樹

～桜山小学校創立150周年記念植樹祭

今年、創立150周年を迎える桜山小学校で、2月10日記念植樹祭が行われました。

全校児童や保護者が参加し、「桜山小学校で出会ったみんなの友情が永遠に続くように」、「桜山小学校が150年、200年と続いているように」との願いを込め、永遠性が花言葉のハナミズキと友情が花言葉のヤマボウシを植樹しました。

最後に、児童代表の白澤朱莉さん(4年)が「ここにいるみんなの絆が途切れることなく続いている事を願っています。この木々たちが太陽に向かってぐんぐん伸びるように、私たちも大きく成長していきましょう」とあいさつしました。

